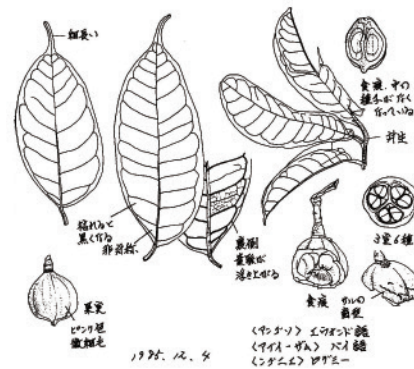
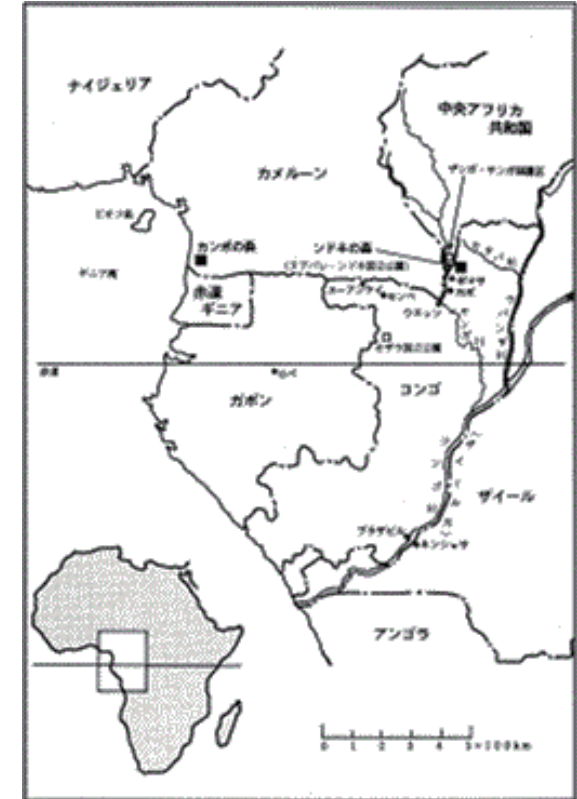


# アフリカ中央部の霊長類が採食する植物

人と自然の博物館元館長の河合雅雄さんはヒトの家族や社会の原型を捜そうとして、アフリカ大陸でヒトの仲間を精力的に調査されました。その調査の最後に、アフリカ中央部のカメルーンでは熱帯雨林に棲むドリルとマンドリル、そしてグエノンやマンガベイといった樹上性霊長類の調査を指揮されました。その調査に参加した三谷雅純は、ジャン・バルセロさんと共にカメルーンのカンボ動物保護区で樹上性霊長類の採食行動の研究を担当しました。その過程でグエノンやマンガベイの採食植物を中心に多くの収集品を集めることができました。

またコンゴ共和国では、アントワヌ・ラファン・オコさんやジャン＝マリー・ムサンボテさん、ジャン・ロベール・オノンガさん、小川秀司さんたちと協力して、世界自然遺産となったヌアバレンドキ国立公園やニシゴリラの再野生化を目指したレフィニ自然保護区の自然環境調査を行いました。この時もコンゴ共和国で、ニシゴリラやその他の同じ森に棲む霊長類の採食植物を中心に多くの収集品を集めることができました。

これらの貴重な資料は順番に整理して、人と自然の博物館に収蔵したいと考えています。同時に研究紀要「人と自然 Humans and Nature」に資料論文として成果を公表する予定です。



アフリカ中央部（カメルーン、コンゴ共和国など）の既存収集品の整理・同定

代表者：三谷雅純

財源：博物館研究費